

児童養護施設入所児童等調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査の実施日

平成25年2月1日（前回調査は平成20年2月1日）

2 調査の対象及び客体

全国の里親委託児童、児童養護施設の入所児童、情緒障害児短期治療施設の入所児童、児童自立支援施設の入所児童、乳児院の入所児童、母子生活支援施設の児童並びに保護者、ファミリーホーム委託児童、自立援助ホーム入居児童を対象とし、その全員を調査客体として実施。

客体：里親委託児童4,534人、児童養護施設入所児童29,979人（内、中学3年以上の年長児童8,412人）、情緒障害児短期治療施設入所児童1,235人、児童自立支援施設入所児童1,670人（内、中学3年以上の年長児童810人）、乳児院入所児童3,147人、母子生活支援施設入所世帯3,725世帯及び当該児童6,006人、ファミリーホーム委託児童829人、自立援助ホーム入居児童376人

II 結果の概要

1 児童の状況

	児童総数	性別		平均年齢	委託（入所）時の平均年齢	平均委託・在所期間
		男	女			
里親委託児	4,534人 (3,611)	2,291人 (1,817)	2,234人 (1,790)	9.9歳 (9.3)	6.3歳 (5.5)	3.9年 (3.9)
養護施設児	29,979人 (31,593)	16,108人 (16,908)	13,685人 (14,555)	11.2歳 (10.6)	6.2歳 (5.9)	4.9年 (4.6)
情緒障害児	1,235人 (1,104)	721人 (641)	506人 (462)	12.7歳 (12.4)	10.6歳 (10.6)	2.1年 (1.9)
自立施設児	1,670人 (1,995)	1,185人 (1,355)	481人 (622)	14.1歳 (14.2)	13.1歳 (13.1)	1.0年 (1.1)
乳児院児	3,147人 (3,299)	1,665人 (1,826)	1,467人 (1,467)	1.2歳 (1.2)	0.3歳 (0.3)	1.2年 (1.1)
母子施設児	6,006人 (6,552)	3,059人 (3,257)	2,931人 (3,272)	7.4歳 (7.3)	5.2歳 (5.2)	* (*)
ファミリーホーム児	829人 (*)	443人 (*)	382人 (*)	11.2歳 (*)	8.4歳 (*)	2.9年 (*)
援助ホーム児	376人 (*)	180人 (*)	196人 (*)	17.5歳 (*)	17.0歳 (*)	0.9年 (*)

注) () は前回調査。*は調査項目としていない。児童総数には性別不詳を含む。

(1) 現在委託中の児童数等（別添2 P2表1、P3表2、P4表3）

～社会的養護の対象児童は約48,000人～

- 里親、ファミリーホーム委託児童及び入所児童（母子生活支援施設及び自立援助ホームを含む）の総数は47,776人（前回調査48,154人）となっている。
- 平均年齢は、里親委託児が9.9歳（同9.3歳）、養護施設児が11.2歳（同10.6歳）などとなっている。
また、委託（入所）時の平均年齢は、里親委託児が6.3歳（同5.5歳）、養護施設児が6.2歳（5.9歳）などとなっている。

(2) 委託（入所）経路（同 P5表4）

～「家庭から」の割合が最も多い～

- 委託（入所）経路は、「家庭から」が里親委託児で47.0%（同44.3%）、養護施設児で68.2%（同71.5%）、情緒障害児で76.0%（同79.8%）、自立施設児で61.0%（同63.5%）、乳児院児で76.1%（同86.2%）、ファミリーホーム児で42.9%、援助ホーム児で47.1%と最も多くなっている。

(3) 就学状況（同 P5表5）

～里親委託児、母子施設児は「就学前」の割合が多い～

- 就学状況については、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ30.3%（同34.0%）、43.7%（同42.1%）となっており、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及びファミリーホーム児では「中学校」が最も多く、それぞれ23.7%（同22.7%）、41.4%（同40.6%）、80.5%（同74.0%）、21.7%となっている。

(4) 心身の状況（同 P6表6）

～養護施設児の約3割が「障害等あり」～

- 心身の状況については、「障害等あり」の割合が里親委託児20.6%（同18.0%）、養護施設児28.5%（同23.4%）、情緒障害児72.9%（同70.7%）、自立施設児46.7%（同35.4%）、乳児院児28.2%（同32.3%）、ファミリーホーム児37.9%、援助ホーム児37.0%となっている。

(5) 特に指導上留意している点（同 P7表8-1、表8-2）

～「心の安定」が各施設に共通～

- 特に指導上留意している点については、「心の安定」が各施設に共通している傾向にあるが、里親委託児では次いで「里親との関係」（39.3%）、養護施設児では「家族との関係」（56.1%）などとなっている。

(6) 学業の状況 (同 P8 表 9)

～情緒障害児、自立施設児は「遅れがある」の割合が多い～

- 学業の状況は、里親委託児、養護施設児及びファミリーホーム児では「特に問題なし」が最も高く、それぞれ 47.1% (同 43.9%)、48.9% (同 47.8%)、41.7% となっている。

また、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、それぞれ 51.5% (同 53.4%)、59.3% (同 64.0%) となっている。

2 委託 (入所) 時の家庭の状況

(1) 養護問題発生理由 (同 P9 表 11)

～虐待を理由とする委託 (入所) の割合が多い～

- 養護問題発生理由の主なものは、里親委託児の場合には「養育拒否」16.5% (同 16.0%)、「父又は母の死亡」11.4% (同 6.6%) であり、養護施設児の場合には「父又は母の虐待・酷使」18.1% (同 14.4%)、「父又は母の放任・怠だ」14.7% (同 13.8%) などとなっている。
- 一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の 37.4% (同 36.7%)、養護施設児 37.9% (同 33.1%)、情緒障害児 50.0% (同 47.9%)、自立施設児 41.7% (同 45.8%)、乳児院児 27.1% (同 27.2%)、ファミリーホーム児 38.4%、援助ホーム児 35.6% となっている。

(2) 被虐待経験の有無及び虐待の種類 (同 P10 表 12)

～養護施設児の約 6 割が「被虐待経験あり」～

- 被虐待経験の有無について「被虐待経験あり」は、里親委託児で 31.1% (同 31.5%)、養護施設児で 59.5% (同 53.4%)、情緒障害児で 71.2% (同 71.6%)、自立施設児で 58.5% (同 65.9%)、乳児院児で 35.5% (同 32.3%)、母子施設児で 50.1% (同 41.4%)、ファミリーホーム児で 55.4%、援助ホーム児で 65.7% となっている。
- 虐待の種類は、里親委託児、養護施設児、乳児院児及びファミリーホーム児ではネグレクトが最も多く、その割合は 68.5% (同 67.1%)、63.7% (同 66.2%)、73.9% (同 71.4%)、63.6% となっている。

また、情緒障害児、自立施設児及び援助ホーム児では身体的虐待が最も多く、その割合は 64.7% (同 60.5%)、60.5% (同 59.5%)、53.0% となっている。母子施設児では心理的虐待が最も多く、その割合は 78.0% (同 73.8%) となっている。

3 委託（入所）時の保護者の状況（同 P11 表 13-1～表 13-3）

～里親委託児の約 5 割、養護施設児の約 8 割が「両親又は一人親あり」～

- 委託（入所）時の保護者の状況は、「両親又は一人親あり」が、里親委託児で 52.2%（同 67.7%）、養護施設児で 81.7%（同 83.2%）、情緒障害児で 88.0%（同 87.3%）、自立施設児で 86.5%（同 87.7%）、乳児院児で 96.6%（同 89.0%）、ファミリーホーム児で 67.3%、援助ホーム児で 71.5%となっている。

4 家族との関係

（1）家族との交流関係（同 P12 表 14-1）

～里親委託児の約 7 割、養護施設児の約 2 割が「交流なし」～

- 家族との交流関係について「交流なし」の割合は、里親委託児で 72.4%（同 71.9%）、養護施設児で 18.0%（同 16.1%）、情緒障害児で 14.8%（同 9.0%）、自立施設児で 10.8%（同 7.3%）、乳児院児で 19.4%（同 20.2%）、ファミリーホーム児で 40.5%、援助ホーム児で 41.2%となっている。

（2）児童の今後の見通し（同 P13 表 15-1、表 15-2）

～「保護者のもとへ復帰」見通しの児童は里親委託児約 1 割、養護施設児約 3 割～

- 児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」が 68.5%（同 60.9%）、「保護者のもとへ復帰」が 10.7%（同 13.8%）となっている。また、養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」が 55.1%（同 55.1%）、「保護者のもとへ復帰」が 27.8%（同 35.4%）となっている。

5 児童を委託されている里親家庭の状況

（1）里親申込みの動機（同 P14 表 16）

～約 4 割が「児童福祉の理解から」里親を申込み～

- 現に委託されている里親家庭の総数は、3,481 世帯となっており、前回調査の 2,626 世帯より 855 世帯（32.6%）増加している。
- 里親申込みの動機別では、「児童福祉への理解から」が 43.5%（同 37.1%）、「子どもを育てたいから」が 30.7%（同 31.4%）、「養子を得たいため」が 12.5%（同 21.8%）となっている。

（2）委託児童数（同 P14 表 18）

～約 7 割が委託児童数 1 人～

- 委託児童数は、「1 人」が 74.3%（同 51.8%）、「2 人」が 19.1%（同 25.0%）、「3 人」が 5.1%（同 11.1%）、「4 人」が 1.5%（同 5.7%）となっている。

(3) 里親の年齢など (同 P15 表 19、表 20)

～約 3 割が 50 歳代～

- 里親の年齢は、「50 歳代」が里父・里母合わせて (31.9%)、「60 歳以上」が里父・里母合わせて (29.6%) となっている。
- 就業している里親の仕事の種類は、「専門・技術」が 18.6% (同 19.2%)、「事務」が 11.0% (同 12.8%)、「宗教家」が 10.7% (同 10.3%) となっている。

6 母子生活支援施設入所世帯の状況

(1) 児童数 (同 P16 表 23)

～入所世帯の約 6 割が児童 1 人～

- 母子生活支援施設入所世帯数は 3,725 世帯となっており、前回調査の 4,056 世帯より 331 世帯 (8.2%) 減少している。
- 母子生活支援施設入所世帯の児童数は、「1 人」が 56.8% (同 55.4%)、「2 人」が 29.8% (同 31.2%) となっている。

(2) 入所理由 (同 P16 表 24)

～約 5 割が「配偶者からの暴力」による入所～

- 入所理由は、「配偶者からの暴力」が 45.7% (同 40.8%) と最も多く、これに次いで「経済的理由による」が 18.7% (同 24.6%)、「住宅事情による」が 15.9% (同 15.3%) となっている。

(3) 従業上の地位 (同 P18 表 31-1)

～就業している母親は約 7 割～

- 母子生活支援施設入所世帯の母親の 66.1% (同 74.6%) は就業している。就業している母親では、「臨時・日雇・パート」が 50.3% (同 53.5%)、「常用勤労者」が 13.6% (同 19.0%) となっている。

7 児童養護施設の年長児童 (中学 3 年生以上) の状況

(1) 就学状況 (同 P20 表 35)

～約 3 割が中学 3 年生～

- 回答が得られた中学 3 年生以上の年長児童数は、8,412 人 (同 7,265 人) となっている。また、就学状況別では「中学 3 年生」が 29.5% (同 33.1%) となっている。

(2) 高等学校等進学希望 (同 P22 表 38、表 39)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 3 割～

- 中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学希望については、「希望する」が 85.0% (同 84.5%)、「考えていない」が 8.4% (同 8.3%)、「希望していない」が 5.2% (同 5.8%) となっている。
- また、年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望については、「希望する」が 27.0% (同 25.7%)、「考えていない」が 30.1% (同 28.1%)、「希望しない」が 37.2% (同 40.7%) となっている。

(3) 将来の希望 (同 P24 表 41)

～家庭復帰を希望する年長児童は約 3 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 34.4% (同 37.7%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 29.1% (同 31.3%) となっている。

8 児童自立支援施設の年長児童 (中学 3 年生以上) の状況

(1) 就学状況 (同 P25 表 43)

～約 8 割が中学 3 年生～

- 回答が得られた中学 3 年生以上の年長児童数は、810 人 (同 1,019 人) となっている。また、就学状況別では「中学 3 年生」が 81.5% (同 72.5%) となっている。

(2) 高等学校等進学希望 (同 P27 表 46、表 47)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 3 割～

- 中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学希望については、「希望する」が 83.2% (同 77.4%)、「考えていない」が 6.5% (同 7.2%)、「希望していない」が 9.2% (同 14.9%) となっている。
- また、年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望は、「希望する」25.2% (同 23.5%)、「考えていない」37.0% (同 33.1%)、「希望しない」34.1% (同 41.5%) となっている。

(3) 将来の希望 (同 P28 表 49)

～家庭復帰を希望する年長児童は約 8 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 77.4% (同 74.7%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 53.8% (同 51.9%) となっている。

9 自立援助ホームの児童の状況

(1) 就学状況 (同 P29 表 51)

～約 2 割が中学卒業生～

- 回答が得られた児童数は、349 人となっている。また、就学状況別では「中学卒業生」が最も多く、22.3%となっている。

(2) 大学 (短大) 進学希望 (同 P31 表 54)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 2 割～

- 児童の大学又は短期大学への進学希望については、「希望する」が 24.9%、「考えていない」が 35.5%、「希望しない」が 36.1%となっている。

(3) 将来の希望 (同 P32 表 56)

～家庭復帰を希望する児童は約 2 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 16.9%、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 33.0%となっている。